

8. センターを運営する学生スタッフの育成

大学ボランティアセンターの運営形態は大学によって様々ですが、本学のボランティア・NPO 活動センターでは、教育職員・事務職員・学生スタッフの三者が協働して運営しています。中でも、学生スタッフは「ピアサポート」という観点から、本学学生のボランティア活動を応援する重要な役割を担っています。

ボランティア相談をはじめとする日常的なコーディネート業務、チラシ整理やメールマガジン、SNS などでの情報提供、ボランティア活動を始めるきっかけとなる様々な企画など、学生スタッフが取り組んでいることは多岐にわたり、そのためには幅広い知識や経験が必要となってきます。

このことから、ボランティア・NPO 活動センターでは、ボランティア活動を推進していくために、社会課題に対する意識を持ち、社会に働きかけていく力をもった学生スタッフの育成を図るとともに、組織運営力、コーディネート力をつけることなどを目的として、学生スタッフへさまざまな研修の機会を提供しています。

事業名	2019年度オリエンテーション合宿 「継続は力なり～合宿だけでは終わらせない～」(継続企画11年目)
日時	2019年6月8日(土) 12時00分～6月9日(日) 16時45分
場所	深草キャンパス内
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	学生スタッフ83名
企画メンバー (学生スタッフ)	太田有里(社会3) 田井拓輝(社会3) 松田 廉(社会3) 川村有希(政策3) 松田侑子(国際3) 林 海斗(文学2) 南 佳奈(社会2) 西村志穂(政策2)

1. 経緯・目的

オリエンテーション合宿は、新学生スタッフがボランティア・NPO 活動センター(以下、センター)での活動を理解するとともに、仲間意識を深める場としている。上回生スタッフは今までの活動の振り返りや、今後の活動の在り方などについて改めて考え、後輩に伝えていく場でもある。特に今年度は以下の4つのことを目的として行った。

- 1) ボランティア活動及びセンターでの活動を理解、再認識する。
- 2) この2日間を通して深草・瀬田の学生スタッフ間や、学生スタッフと職員との交流を行う。
- 3) この2日間だけでは終わらせず、今後挑戦していく姿勢や活動意欲を向上させる。
- 4) 各ワークを通して、本学学生や教職員に活動やボランティアを伝えていく大切さに気付く。

2. 概要

〈1日目〉

- 12:00 集合
12:30 開会式
12:45 コミュニケーションワーク1
「意識の始まり」

～継続は理想のコミュニケーションなり～
参加者の名札にパズルのピースを入れ、同じ絵の人を探しつつ、声をかけた人に質問するというアイスブレイクを行った。その後、グループに分かれて「気持ちの良い話し合いとは？」を意識しながら最終合意形成につながるワークを行なった。アイスブレイクを挟み、「優先座席」というテーマに沿って互いの多様性について考えるグループワークを行った。

- 16:15 センターの理解
18:00 交流会
20:00 解散

〈2日目〉

- 10:00 集合
10:35 コーディネートワーク
「学び、習得の始まり」
～継続は技術向上なり～

先輩と後輩が二人一組のペアになり、来室者ペアにコーディネートをするという模擬コーディネートを行った。来室者役の興味のあるボランティアを先輩が聞き出し、後輩がセンターへチラシを取りに行き、先輩がコーディネートした。

11:45 昼休憩

13:00 + α ワーク (プラスアルファ)

「仲間意識の始まり

～継続はつながりなり～」

各キャンパスの同回生ごとに交流した。学生スタッフ企画について自分が興味のある企画の背景や目的などをまずは各自で考える。次にそれら企画に携わった学生スタッフから実際の活動についての説明を受け、さらに関連のあるボランティアについてグループ内で考えを深めていく。その後の活動意欲を高めるため、これからできること・したいことも考えた。

14:50 まとめワーク

「継続は力なり

～合宿だけでは終わらせない～」

2日間のワークを振り返り、ワークを踏まえて各キャンパスに分かれ、これから継続させたいことを各キャンパスのマスコットキャラクターが印刷してある模造紙に一人一人書き出した。その後、全体で共有を行なった。

16:25 クロージング

16:45 解散



3. 参加者の声・得られた効果など

○コミュニケーションワーク

- ・知らない人とも質問をしあってお互いのことを話すことで、打ち解けることができた。
- ・改めて自分がどのように相手に話せばいいのか、話をどう振ればいいのか確認できた。今後、自身がどのように改善すればよりよい

ワーク進行、話し合いができるのか学べた。

- ・合意形成のお題もみんなの価値観によって順位が変わり、答えのないものでやっていて良かった。

○コーディネートワーク

- ・先輩役それぞれのコーディネートと比較することができ、各先輩の特徴を吸収できた。また、コーディネートができない分、自分なりに客観的に見られた。
- ・自分がよく行く分野の情報しか知らなかったのので、あまり行かない分野の情報を知ろうと思った。
- ・紹介する団体を1つに限定せず、複数あれば来室者が選べる幅が増える。逆に1つに絞る、日程や場所からある程度活動しやすいボランティアに導くことも大切。

○+ α ワーク

- ・他キャンパスの活動について興味関心が高まった。
- ・両キャンパスの詳細を各所属学生から聞くことで、ほかのボランティアについても知ることができ勉強になった。
- ・自分が興味のあるボランティアが瀬田キャンパスの地域で行われていると気づき、参加する意欲が湧いた。

○まとめワーク

- ・自分なりに振り返りができたし、今後の目標や新たな発見があった。
- ・今後の目標を共有することで「自分はこれも必要」と感じ、刺激になった。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・ワーク内容や進行の流れに意図を込めていて、言葉で伝えた部分もあるが、全員に伝えきれていない場面も見られた。「気付いてほしい」だけで終わるのではなく、ワークによっては進行ごとに意図を伝えた方がよい場合もあると学んだ。
- ・合宿の2週間前に、当日参加ができない人の協力を得てリハーサルを行なったことで、ワークの内容改善や伝え方の工夫すべき点などに気づけた。第三者に見てもらうことに重要性を感じた。

- ・昨年に引き続き、ワークが予定時間に収まらず省略する場面が見られた。一つ一つを丁寧にするためには、2日間で4つのワークを行なうのは難しい。毎年行なっているワークをやめるなど、今後の課題としてワーク構成を見直す必要がある。
- ・オリエンテーション合宿のワーク内容が新学生スタッフ向けのワークになってしまい、上回生が新スタッフに教えるという場面が多くなった。今後は上回生が教える場面だけではなく新学生スタッフが主体的、能動的に行なえるワークが必要である。

5. 経 費

【深草】合宿補助費	46,000円
消耗品費	2,781円
交通費補助	11,180円

【瀬田】合宿補助費	44,000円
消耗品費	5,158円
交通費補助	49,390円
合計	158,509円



〈報告者：田井 拓暉、川村 有希〉

事業名	深草夏合宿「コンフィデンスマン VC 仲間編」(継続企画9年目)
日時	2019年9月17日(火)～9月18日(水)
場所	丸三旅館(滋賀県高島市安曇川町西万木1045-1)
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター(深草)
参加人数	深草学生スタッフ44名(宿泊あり41名、日帰り3名)、コーディネーター1名
企画メンバー (学生スタッフ)	神田瑞季(経済2) 黒崎雄太(経済2) 松尾宗次朗(経済2) 世田丈貴(法学2) 西村志穂(政策2) 平尾萌衣(政策2) 福島麻斗(政策2) 川根脩那(経済1) 藤原壱成(法学1) 小林初音(国際1)

1. 経緯・目的

ボランティア・NPO 活動センターが行っている学生企画は、学生スタッフの有志が企画メンバーとなって進行、実施している。学生企画への関わり方は、企画メンバーになる・ならないというように、学生スタッフそれぞれで濃淡があってもよいとされている。学生企画はセンターが実施しているものであるから、企画メンバーでない学生スタッフも何らかの形で学生企画に関わることはできるが、企画メンバー以外の学生スタッフが企画に携わろうとする姿があまり見られないこともあり、それは課題だと感じる。

以上のことを踏まえて今年度の夏合宿は、企画メンバーとそれ以外の学生スタッフの相互関係に焦点を当て、以下の3つを目的として実施した。

- ・学生企画が学生スタッフ全員で作り上げるものであることを再認識する。
- ・仲間同士の「助け合い」、「支え合い」、「励まし合い」の大切さを知る。
- ・この合宿を、学生スタッフが自主的にセンターへ足を運びたくなるような雰囲気づくり・きっかけづくりの場とする。



2. 概要

〈1日目〉

- 12:30 JR 安曇川駅より送迎バス出発
- 12:40 会場設営等、合宿開始までの準備
- 13:30 オープニング
- 13:45 オリエンテーション合宿振り返り
前期振り返り
- 14:50 休憩
- 15:00 「コミュニケーション」について
- 17:00 休憩
- 17:30 夕食 (BBQ)
- 21:00 交流会
- 23:00 就寝、企画メンバー1日目振り返り

〈2日目〉

- 7:00 起床
- 7:30 朝食
- 9:00 「伝える力・聴く力」について
- 12:00 昼食
- 13:30 「情報共有・認識のずれ」について
- 15:30 まとめ
- 16:15 エンディング
- 17:00 送迎バスでJR 安曇川駅へ移動、解散

3. 参加者の声・得られた効果など

- ・同期の学生スタッフが合宿の企画メンバーとして頑張っている姿を見て、企画メンバーでなくても、少しでも手伝ってあげることが大切だと気づいた。
- ・「企画をみんなのものに」という意識をこれからも忘れないようにしたい。この合宿を通してその壁がなくなっていけばいいなと感じた。
- ・企画メンバーが「楽しく」ということを意識してくれたため、終始楽しかった。

参加者からは以上の感想が多く得られた。さらに、この合宿の後に学生企画が3つ続いたため、合宿の効果が実際に現れているのかどうかを観察した。結果として、企画メンバー以外の学生スタッフがセンターに足を運ぶ姿が多々見られ、下級生を中心に効果が現れていると実感した。

また、アンケートの項目の1つである「今後の合宿に求めるもの」という欄には、「普段の活動ではできないような話し合いをしたい」や

「楽しい場面と真剣になる場面の両立がしっかりとしている合宿」など、考えは様々ではあったが学生スタッフ一人一人が合宿に対する考えをはっきりと持っていたことが分かった。これを基に、スタッフミーティングの場で再度話し合いを実施し、そこで出された意見をまとめた資料を残した。今後の合宿では、その学生スタッフの声を参考に企画して欲しい。

4. 学んだこと・今後の課題

今年度の夏合宿の責任者を担当して感じたこととして、まず今の学生スタッフは、全体的に企画メンバーとして合宿運営に携わろうという意欲が低いことが挙げられる。

理由としては「合宿運営＝ワーク作り」というイメージがあり、学生スタッフの活動の中ではミーティングやボランティア企画など、合宿以外でもワークをする場面は多いものの、参加する側にとって充実感を得られるような内容になることはなかなかない。このため、ワークそのものを作る側になることは、かなり大変であると学生スタッフが感じていることがある。

また、合宿参加への意欲不足は、普段の活動意欲に関係するものであると考えられる。その対策として、今年度は合宿運営側と合宿参加者の双方が「飽きない」合宿を目指して企画メンバーを募り、進めていった。しかし、その結果として、目的の1つである「学生スタッフがセンターへ足を運びたくなるような雰囲気づくり、きっかけづくりの場」にはなったが、「学生企画について深く考える場」にはできなかった。

今後の合宿を実施する上では、事前の実施目的の再認識や重要性を学生スタッフ全体で考えると共に、楽しくかつ真面目にセンターの今後を考えられるようなメリハリと、普段の活動に直接つながるワークを作り上げていくことが課題である。

その他の反省点として、合宿を行う施設や宿は余裕を持って見つけることや、合宿を実施するに適しているかどうかの判断を合宿当日から2、3ヶ月ほど前にすることが、ワーク作成やスケジュール決め等、合宿の中核に悪影響を及ぼさない結果につながると感じた。

また、今年度の合宿において新たに実践したこととして、合宿のしおりのデータ化が挙げら

れるが、参加者から「紙媒体のしおりがないとさみしい」との声もあったので、今度の合宿ではその都度、作成するか否かを企画メンバーと話すが良い。さらに、例年、企画メンバーはそれぞれが作成を担当した部分のワークのみ、当日も担当するという形を取っていたが、今年度は担当外のワークでも役割を与え、合宿への主体的な参加意識や責任感の強化に努めた。その結果として、例年のような担当外のワークへの関心が低い状態にはならなかったが、少し負荷がかかりすぎてしまったように感じた。

以上より、今後の合宿では現在まで続けてきた夏合宿の実施目的を全学生スタッフが認識し、かつ今までにない新しい合宿の形を目指して企画、運営をしていくことが求められる。

消耗品等	2,138円
交通費補助（7割上限2,000円）42名分	56,830円
宿泊費補助	2,000×41名＝82,000円
行事保険	238×44名＝10,472円
合 計	157,980円



5. 経 費

下見交通費（7割上限1,000円）7名分

6,540円

〈報告者：世田 丈貴〉

事業名	瀬田夏合宿（継続企画9年目）
日時	2019年9月3日（火）～9月4日（水）
場所	近江希望が丘ユースホステル（滋賀県野洲市）
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）
参加人数	学生スタッフ34名 コーディネーター1名
企画メンバー（学生スタッフ）	頼田翔平（理工3） 田井拓暉（社会3） 正中葉帆（社会3） 赤木宏斗（社会2） 大屋晴太郎（農学2）

1. 経緯・目的

今までの合宿では、学生スタッフのコミュニケーション力やコーディネーション力など、スキルアップのためのワークを行っていた。しかし、ワークをしても合宿だけで終わってしまい日頃の活動に繋げることが難しかった。

そこで今回の合宿では、日頃の活動において重要なテーマである「班係活動」について取り組んでみようと考えた。学生スタッフは全員が班係に属しており、ボランティア・NPO 活動センター（以下ボラセン）において分担して活動している。これまで班係について考える機会を設けることができなかったため、今回の夏合宿では以下の3つのことを目的として行った。

○班係活動を見つめ直し、学生スタッフがより一層円滑に活動できるよう考える場をもつ。

- 今年度の目的・目標・指針を基に前期の活動を振り返り、後期に向けて活動意欲を高める。
- 学生スタッフ間の交流を深め、互いに協力し合える関係性を築く。

2. 概 要

〈1日目〉

13：00 ボラセン理解

6つの班係（Let's ボランティア、掲示管理、メディア、うまくなり隊、広報誌、発掘し隊）に分かれて、それぞれの班係の目的、昨年の活動、課題や、あったらいいと思う班係などについて話し合い、まとめる。その後全体で班係の活動について共有する。

14：20 アイスブレイク「嘘を暴け」

14:40 理想の班係構成を考えよう

現在の班係構成にとらわれることなく、どのような班係構成なら活動しやすいのかを考える。まずは個人で考え、その後5つのグループに分かれてグループごとで一つのアイデアにまとめる。5つのグループ案ができれば全体で話し合い、最終的に全体で一つの班係構成（案）を作成する。

18:30 夕食

20:30 交流会

23:00 就寝

〈2日目〉

7:30 起床

8:30 朝食

10:00 理想の班係構成で考えよう

1日目で考えた理想の班係構成（案）を基に、それぞれの班係では、どのような活動をするかをそれぞれ分かれて話し合う。班係の目的、活動内容、班係名も検討する。（今回考えた班係：新発掘し隊、助け隊、仲良くなり隊、Power up ボラセン、広報）

12:00 昼食

13:00 理想の班係構成で考えよう

それぞれの班係で話し合い、考えた目的、活動内容、班係名を全体で共有する。

13:50 振り返り、後期の目標

3～4名のグループになり前期の活動を振り返る。その後、それぞれで後期の目標を考える。二人一組のペアをつくりお互いに目標を書いた紙を見せ合い、自分の後期の目標と、その思いを伝え合う。ペアを変えて数回おこなう。

15:00 閉会式



3. 参加者の声・得られた効果など

- ・普段は班係について話し合う機会がなく、ほかの班の活動などがわからなかったが、今の班係の状況を知ることができた。
- ・合宿を通して色々な良い意見や面白い考えを知ることができたので、今後に活かしていきたい。
- ・日頃、仲間同士で議論することは少ないが、自分の意見を相手に伝える機会が沢山あり、良い経験になった。
- ・ボラセンで活動する上で重要な班係活動について見直すきっかけとなり、今後の活動に繋げることのできる合宿だった。
- ・話し合う機会が沢山あり、自分とは異なる色々な人の意見を聞くことができた。ほかのメンバーがボラセンでの活動に対してどう思っているかを知ることができた。



4. 学んだこと・今後の課題

- ・ボラセンの活動や班係について話し合う中で、学生スタッフそれぞれで色々な視点があり、普段は表に出さないが個々人で意見を持っているということが合宿を通して分かった。
- ・全員が考えを出し合い、一つの班係構成案を作り上げるには、どういう過程を経て、どういう場づくりをすればよいか、方法を考えるのにとっても苦勞した。また、それぞれの意見を取り入れられるようにするにはどうしたらいいか、合意形成を図るにはどのような決め方をすればいいのか、様々なことを考慮しながら合宿の構成、ワークの内容を考えた。最終的に構成案を一つにする際には、多数決では決めず、企画メンバーが全体のファシリテーションを行い、参加者全員と対話をしながらまとめるという方法をとった。ふりかえると、色々な人から意見を引き出すことはできたと思うが、まとめることを意識しすぎ、全員の意見を反映させて一つの案をつくると

いうのは難しかった。

- ・ボラセンの活動において重要な班係をテーマにしたため、入って間もない一回生には分からないことが沢山あった。全体として、一回生が進捗状況を把握できているか確認は取っていたが、企画メンバーで手分けして、一人一人丁寧に確認できればよかったと思う。
- ・合宿を通して、参加する側の目線や気持ちを意識し、話し合いの意図をより具体的に理解してもらえるように、説明力を向上させる必要があると痛感する。今後の合宿でも、言葉だけではなく、パワーポイントやレジュメを活用し、分かりやすく説明できるように工夫する必要がある。

- ・後期、また来年度の活動に向けて、この合宿で作成した班係構成案を今後どのように活用していくか考えていく必要がある。この案を基にさらに、普段のミーティングで議論を重ね、新たな班係構成を整えていきたい。

5. 経 費

宿泊費補助	62,000円
交通費補助	12,790円
消耗品	432円
合 計	75,222円

〈報告者：大屋 晴太郎〉

春合宿（瀬田・深草）

毎年、春季休業期間中に、1年の総括と新年度に向けての目標立てなどのため、学生スタッフはキャンパスごとに春合宿をおこなっています。

2019年度春合宿は、瀬田は2020年3月9日（月）～10日（火）、深草は2020年3月18日（水）～19日（木）で、どちらも近江希望が丘ユースホステルにて実施予定でした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う合宿などの課外活動自粛要請のため、春合宿は中止することとなりました。

準備を進めていた企画メンバーとは、春合宿実施にあたり話し合ってきた問題意識などを整理し、合宿が実施できるような状況になった際には、今回実施しようとしていたことも活かすことが出来るようにしたいと考えています。

セミナー名	大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー2019
日 時	2019年9月2日（月）～3日（火）1泊2日
場 所	セミナー会場：大阪市立青少年文化創造ステーション KOKO PLAZA 宿泊会場：新大阪ユースホステル
実施主体	NPO 法人ユースビジョン
全体参加人数	大学ボランティアセンターで活動している学生スタッフ 合計32名（11大学・キャンパス）
本学参加人数	学生スタッフ3名

1. 目 的

大学ボランティアセンターの学生スタッフが、全国の学生スタッフとの交流や学習を通して、活動を広げ、レベルアップとスキルアップを目指して参加しました。

2. セミナー概要

〈1日目〉

- ①アイスブレイク（センター自己紹介）
- ②全体会1「ボランティアを改めて考えてみよう」

③テーマ別セミナー

- ・コーディネーションを学ぼう
- ・センターの広報戦略を考えよう

④交流会

〈2日目〉

- ①全体会2「学生がボランティアをする意味、意義、価値を考えよう」
- ②全体ふりかえり
「セミナーでの学びをどう活かす？」
- ③集合写真撮影、セミナー終了



3. 参加者感想

高岡 宏幸

(社会学部 社会学科 2年次生)

今回のセミナーは、他大学の取り組みを聞くことから、自分たちの活動を振り返り、今後の活動への刺激を数多く受ける場であった。

大学紹介で大学ごとにセンターの設立目的や運営体制をお聞きし、交流会では特徴的な活動や悩みを共有し、自分たちのボラセンの特徴を客観視することができた。また、交流の中から、今後のより良い活動へのヒントも見つけられ、同じ学生スタッフとして活動している者たちが集まるこの機会が、貴重なものであることを再認識した。

テーマ別セミナーでは、広報について考えたことが印象に残っている。学内でボランティア啓発をする上で様々な広報を行うが、学生スタッフ自身がその広告塔であるということ、楽しい雰囲気の中でボランティアを呼びかけたり、生き生きとしたコーディネーションを行い、活動にやりがいを感じることの大切さを学んだ。また、一方的に情報を発信する広報よりも、学生のニーズに基づいて情報を届けるということも大切なことだ。セミナーで得た気づきや学びを、これからの活動に取り入れていきたい。

東 里音

(社会学部 現代福祉学科 2年次生)

今回の学生スタッフセミナーでは、他大学の学生とたくさん交流することができた。日頃の活動では出会えない仲間と話すことで、普段とは違う話の広がり、展開を感じ、交流会では様々な学生スタッフの在り方についても考えることができた。自分の悩みを相談する中で、もやもやと悩んでいたことを「自分も周りも変えてい

こう」と後押ししてもらえたことは大きかった。いつも話している仲間との意見交換とちがいで、初めて出会った仲間とのセッションは刺激的だ。同じことを繰り返すのではなく、時には自分の仲間から離れて外から自分達を見直すことで、より良い方向へ変わっていけるのではないかと感じた。

模擬コーディネーションの際、かなり細かな設定がありただ練習するよりやり方が身についたように感じた。リアリティのあるコーディネーションに加え、自分たちが日頃紹介しているボランティアを、資料を見ずに相手に説明するという練習は、より理解が深まるということを実感した。

各大学の学生スタッフはそれぞれ自分達のやり方で経験を積み重ねていると思うが、そこから生まれる違いをこういった場で共有し、互いの刺激とする機会は本当に貴重で大切だ。これからもここで得た繋がりを大事にしながら、学んだことをこれからの活動につなげていきたい。

杉山 わかな

(社会学部 現代福祉学科 1年次生)

私が1番印象に残ったのはテーマ別ワークだ。私はコーディネーションのワークを選んでおり、そこで模擬練習を重ねていたが、普段交流のない他大学の学生スタッフによるコーディネーションを見ることが出来、とても参考になった。また、ワークの方法も私にとっては斬新だった。相手役の設定が細かく決まっており、ボランティアをするきっかけ、興味のある分野など、かなり細かく設定されていて、その設定に合わせて話に深みを持たせる必要があり、設定されていないワークに比べ、現実的な模擬練習を行うことが出来ると思った。

セミナーに参加して私が感じたことは、「自分は何も知らない」ということだった。龍谷大学ボランティア・NPO活動センターのことも、他大学のことも、学生スタッフがやるべきことも、本当に知らないことがまだまだたくさんあることを改めて痛感した。他の学生スタッフと一緒にワークをしたり交流することで、これからはもっと知っていきたい、自分も頑張りたいとモチベーションを上げることが出来た。



4. 経 費

交通費補助（7割上限2,000円）	4,080円
参加費補助（一人5,000円×3名分）	15,000円
合 計	19,080円

セミナー名	大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー2020
日 時	2020年2月12日（水）～13日（木）1泊2日
場 所	セミナー会場：大阪市立青少年文化創造ステーション KOKO PLAZA 宿泊会場：新大阪ユースホステル
実施主体	NPO 法人ユースビジョン
全体参加人数	大学ボランティアセンターで活動している学生で、2020年度運営の中核を担うリーダー層 合計35名（14大学・キャンパス）
本学参加人数	深草学生スタッフ4名、瀬田学生スタッフ4名

1. 目 的

このセミナーは、大学ボランティアセンターの学生スタッフのうち、次年度の活動を担うリーダーたちが「リーダーとは何か」についてもう一度深く考え、組織の運営を学び、よりよい活動を行うことを目的として、毎年実施されています。

ボランティア・NPO 活動センターからも代替わり後の正副代表が、他大学の学生スタッフとの意見交換や議論を通して視野を広げるために参加しました。

2. セミナー概要

〈1日目〉

- ①アイスブレイク（参加者自己紹介）
- ②ワーク&講義（1）「チームでのコミュニケーション」
- ③ワーク&講義（2）「合意形成とは？」

④交流会

〈2日目〉

- ①ワーク&講義（3）「リーダーとは」
- ②全体共有「セミナー後の行動計画」
- ③集合写真撮影、セミナー終了



3. 参加者感想

安本 大輝

（法学部 法律学科 2年次生）

セミナーでは他大学と交流する時間が多く設けられており、様々な活動内容や悩みを共有することができた。龍谷大学ボランティア・NPO 活動センターは、他大学と比べて設立から年数が経っており、学生スタッフも多いため、班活動や来室者対応の基礎が築かれている。しかし、参加大学の中にはまだ学生スタッフが数名しかおらず、広報や企画について十分に組み込むことが難しいという大学もあった。

一方、当センターの学生スタッフは毎週金曜日にミーティングをしているが、決まったメン

バーしか参加できない、ミーティングの時間が極端に長くなるなど、課題を抱えている。その点、他大学ではミーティングの実施頻度が2週間や1ヶ月ごとであったり、審議をする際はボランティアの募集や報告を行わないなど、工夫して行っていた。

今後は他大学の様々な手法を参考にしながら、その場面に応じて柔軟に取り組んでいきたい。

石井 翔大

(法学部 法律学科 1年次生)

私はこのリーダーセミナーを通して、情報共有の大切さと大変さを改めて知ることができた。話し合う中で必要なことだと言わなかった、言えなかったことが私たちのボラセンでは多いように感じている。そして大抵、そのことは話し合いが発展することを妨げている。このリーダーセミナーの中でも、問題解決ワークで班メンバーへの情報の伝え方やタイミングを誤ってしまい、情報の受け手側の理解不足も重なって、話し合いが進んでしまってからそれがキーとなる情報だったということがあった。

これからリーダーとして活動していく上で、学生スタッフそれぞれが自分の思っていることをちゃんとと言えるような環境にするために、今回学んだコンセンサス（合意形成）を目指す議論、会議の種類、人の心の働きなどを十分に意識していきたいと思った。そして、リーダーだけではなく学生スタッフみんながリーダーシップを発揮できるような、明るく活発なボラセンにしていきたい。

竹内 祐人

(法学部 法律学科 1年次生)

私はこのリーダーセミナーに参加して、自分にとっての理想のリーダー像をもう一度考えるとてもいい機会になった。

他大学のボランティアセンターの学生スタッフと一緒に『リーダーに求められるもの』を複数の選択肢の中から順位付けするというワークをした時、私と他大学の学生ではリーダーに必要なだと思っていることが異なっていた。自分はスケジュールの調整力が一番大切だと思っていたけれども、企画を作る能力が大切だという考えもあったり、情熱を持ってやることが一番大

切だという意見の人もいた。情熱をもって活動をすることで周りの人が感化されてやる気が芽生え、それがより良い活動に繋がるという理由を聞き、今まで私はそのように考えたことがなかったので、自分の視野を広げることに繋がったと感じた。

今回このセミナーを通じて学んだことを必ず活かして、より良いボランティアセンターにしていけるよう努力していきたい。

谷垣 俊弥

(法学部 法律学科 1年次生)

今回のリーダーセミナーに参加して、今後の活動に役立つ様々なことを学んだ。リーダーの役割やリーダーシップについて、効果的なミーティングや話し合いの方法など、学んだことを今後の活動に反映していこうと思う。

たとえば、ミーティングひとつ取っても、参加者の並び方や、情報共有の方法などがいろいろあることがわかった。その中から龍谷大学ボラセンの学生スタッフに合ったミーティング形式を見つけ、より良いミーティングができるようにしたい。さらに、他大学のボランティアセンターの学生スタッフと交流することで、そのボラセンの活動を知ることができ、今後活動していく上での意欲を高めたり、悩みを共有しながらお互いの励みにすることができた。

このセミナーに参加することで、自分が回生のリーダーであるという自覚を持つことができ、今後リーダーとして頑張ろうと思った。

渡中 新太郎

(農学部 植物生命科学科 2年次生)

リーダーセミナーに初めて参加して、1泊2日の中でリーダーとリーダーシップの違い、コンセンサスの仕方、活動計画の基本など様々な事を学んだ。自分は今、大学のボランティアプログラムのリーダーをしており、もっと早くにこの内容を知りたかったと思った。

印象に残ったことは、メンバーが出したさまざまな意見を全員が納得できる意見になるまで合意形成すること、そして、そのために話しあうことがとても面白いと感じた。しかし、全員が納得する合意形成には時間がとてもかかるため、コンセンサスは、組織を作っていくうえで基盤となる目的・目標を決める時など、特に重

要な場面で使うべきものであると自分は感じた。

他大学のボランティアセンターの人達と、活動している中で出てくる悩みなどを交流会の時間に共有でき、他の大学でも自分達と同じような悩みを持って活動しており、どうやって解決しようか模索しているのだとわかった。今後はもっと大学同士で繋がろうとの意見も出て、自分もいろいろな大学に足を運んでみたい。

今回のセミナーで学んだ事を活かして、ボランティア・NPO 活動センターでみんながより良い活動ができるようにしていきたい。

東 里音

(社会学部 現代福祉学科 2年次生)

今回のセミナーで私が大切にしたのは、他大学の学生との交流であった。各ワークや交流会を通して仲間のことを知り、彼らの所属する団体を知ること、自分達の団体について見つめ直すことができた。

私は昨年このセミナーに参加していたが、当時は他大学との違いに圧倒され、自分の至らなさに目がいくばかりであった。しかし今回、龍谷大学で行なっている活動を他大学が参考に行っていることを知り、龍谷大学の学生スタッフは自分達の活動について、知識をしっかりと持つことが出来ていると感じた。活動が有用的で、団体内で情報の共有がきちんとなされているという事だと思う。私達はそれを当然のことと正しい活動してきたが、他大学から見るとそれらは龍谷大学の強みであると知ることができた。こういった他大学から見本とされている活動内容や知識の共有は私が入るずっと前からセンターでは行われてきていた。先輩たちが積み上げてきてくれたこれら強みと実績を大切にしながら、さらに新たな自分達の強みを作っていく。

同じくセミナーに参加した後輩、同学年の仲間と共に、今回こうした交流や、各ワーク、講座などで得た知識、方法を送り出してくれた仲間達に還元していきたい。

杉山 わかな

(社会学部 現代福祉学科 1年次生)

このリーダーセミナーを受講して私が最も参考になったのは「会議の作り方」だった。現在、

私は1回生の代表をしており、全体ミーティングや様々なプロジェクトでファシリテーターを務める可能性があるので、会議の方法や役割分担、段階など基礎的なことを知ることが出来たのはとてもためになった。様々な場面で使えるスキルで、同回生の学生スタッフにもニーズがあると思うので、吸収してきた内容を皆に伝えたいと考えている。

また、体験型学習の内容も非常に印象に残っている。皆で協力して進めてくことにより目的をゲーム方式で達成するというものだったが、これがとても楽しく体験することができ、新しいワークの方法を学ぶことができた。このワークでは、順序立てて進めることや、役割を分担することの大切さ、そして何より、共通の明確な目的を持つことで集団がその本領を発揮出来るということを、ゲームを通して体験することが出来た。参考にした書籍も紹介していただき、今後、ミーティングや合宿の中で行ってみたい。

今回のリーダーセミナーで、ミーティングやファシリテーションの様々な手法を知っているかどうかは大きな違いがあるということを感じた。そして、仮に知っていたとしてもそれをうまく生かせるかどうかは自分次第だ。学んだだけで終わらせず、今後しっかり実践していきたい。また、この学びを自分だけで終わらせず、周りの仲間にも伝えていきたい。

朝野 健太

(社会学部 現代福祉学科 1年次生)

このセミナーを通じてリーダーとは何かについて改めて考えることができた。グループになってリーダーに必要なと思うものに優先順位をつけていく、というワークがあり自分なりに順位をつけた。順位をつけた後、なぜその順位にしたのかをグループで議論したのだが、自分とは全く逆の意見を出す人がいて驚いた。その人の意見は筋が通っており、納得させられるものだった。このようにみんなが想像している理想のリーダー像は一人一人違っていたが、どれも良いものだった。当たり前のことではあるが、リーダーとして自分の意見を押し付けるのは間違っている。このワークからは他者の意見を聞き、それを共有する大切さを学んだ。

また、「決定すること」についても学ぶこと

が多かった。「決定」には様々な種類があり、目的、時間などによって使い分ければより良い形となるということが印象に残った。ただこちら（リーダー側）が、一方的に決めてしまっただけではメンバーの不安を生むことにつながり、方向性が一つにまとまらないという恐れがある。重要なのはメンバーが納得していること、決定までのプロセスでなるべく多くの意見をメンバーから引き出すことであると感じた。そのためには広い視野をもつ必要がある。

今回のセミナーでは様々なことを学ぶことができた。これをセンターに持ち帰り、学生スタッフと共有しさらなる向上につなげていきたい。



4. 経 費

交通費補助（7割上限2,000円）	7,410円
参加費補助（一人5,000円×8名分）	40,000円
合 計	47,410円

事業名	KAGAVOCO ボラセンエキスポへのブース出展
日時	2019年8月29日（木）
場所	大阪府立大学 I-site なんば
主催団体	関西学生ボランティアコーディネーターネットワーク（KAGAVOCO）
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	40名（うち龍谷大学参加者は6名）
企画メンバー （学生スタッフ）	米本圭吾（経済4） 頼田翔平（理工3） 二木亮英（社会3） 高岡宏幸（社会2） 林 新（経営1） 杉山わかな（社会1） 安原拓真（社会1）

1. 経緯・目的

関西学生ボランティアコーディネーターネットワーク（以下KAGAVOCO）では、関西圏にある大学のボランティアセンターに所属する学生スタッフ同士がつながり、お互いに切磋琢磨できるような環境づくりを目指している。その一環として、KAGAVOCOで「ボラセンエキスポ」が開催されることとなった。そこに参加し、他大学とのネットワーク作りと学生スタッフとしてのスキルアップを図る機会にしたいと考え、以下のことを目的に参加をする。

- ①事前準備や資料作りを通じ、日々の活動を客観的に振り返る。ブースで他大学へ活動紹介を行えるようにする。
- ②龍谷大学ボランティア・NPO 活動センターの活動を他大学にPRすることにより、当センターの認知度向上に寄与する。
- ③他大学と交流を深めることにより、学生スタッフとしてのネットワークを広げる機会とする。

2. 概 要

関西圏の大学ボランティアセンターが集まり、大学ごとにブースを出展する。ボランティアセンターの概要・運営の体制・普段の活動・大学独自の取り組みなど、各大学がボランティアセンターの活動紹介を行う。

3. 参加者の声・得られた効果など

(1) 参加した学生スタッフの声

- ・改めてボラセンについて考える場ができた。
- ・他の大学のボラセンの取り組みや力を入れているポイントを知ることが出来て参考になった。また、もっと他大学の人と交流をしたかったという声があった。
- ・他大学との規模の違いや各大学のボラセンの特色について理解することができた。
- ・出展の準備をすることで自分の大学のボラセンについての理解を深めることができた。また、他大学について知ることで、自分たちの

取り組みを客観的に見ることができた。

- ・自分たちに与えられた環境が当たり前でないことが分かった。

(2) 得られた効果

今回、他大学のボラセンについて初めて知ったという学生スタッフが多くいた。参加者が自分の大学と他大学の環境を比較し、自分たちのボラセンの長所と短所について初めて考える機会になった。また、本学の取り組みを紹介したことで、普段行なっている活動への理解を深めることもできた。このことがきっかけになって、さらに龍大ボラセンの取り組みを詳しく知っていききたい。

プレゼンを行う中で、自分たちの長所が他大学の課題の解決策になるかもしれないという発見もあった。その一方で、他大学の取り組みを聞き、ボラセンにも取り入れたら良いのではと思える情報もあり、よりよい龍大ボラセンを作るためのヒントを得られたと思う。

4. 学んだこと・今後の課題

活動紹介で使うパワーポイントの完成がギリギリになり、内容について不安を残したまま当日を迎えてしまった。その影響もあり、質問コーナーで自分の所属とは異なるキャンパスについて聞かれたとき、回答に詰まる場面があった。スケジュールに余裕をもってしっかりと準備をすすめるようにしていきたい。

また、休憩時間などのフリータイム時に、他大学の学生との交流があまりできなかった。せっかくの機会なので、同じ大学でかたまってしまわず、他大学の学生と積極的に交流するよう今後意識したい。

今後の課題は以下の通り。

①学生スタッフ内での関心を増やす

今回は企画メンバー内のみで作業をしたので、このイベントに参加しない学生スタッフに

関心をもってもらう事ができなかった。他大学との交流の利点は、大学ボラセンの比較ができ、自分たちの活動や所属するセンターを客観視できる事だ。この客観視することこそが、今後私たちのセンターが発展していくうえで欠かせない要素であると考ええる。今後も、この客観視を持てるような機会を増やしていくと同時に、他大学との関わりの重要性を学生スタッフに伝えていきたい。

②他大学のアイデアを学生スタッフに共有し、取り入れる方法を探る

他大学の取り組みを聞いた事で、そのアイデアを自分たちの大学に取り入れたいという意見があった。参加者がこのイベントで得た経験を他の学生スタッフに還元することが大切だと考える。今後、活動に行き詰った時には、他大学のアイデアを参考にしてみたい。

今後も他大学と交流していきたいという学生スタッフとともに、各大学の活動を共有する機会を増やし、お互いの大学でより良い環境作りのためのアイデアを生むきっかけを作っていきたい。



5. 経 費

交通費補助（7割上限1,000円） 4,620円

〈報告者：米本 圭吾〉